

教員の研究活動 2011年4月～2012年3月



大学校長

[著書]

田村やよひ(2011). 社会の変遷と看護の発展. 田村やよひ編, 看護学基礎テキスト(第3巻) 社会の中の看護. 30-64, 日本看護協会出版会, 東京.

[誌上発表]

田村やよひ(2011). No.53 守秘義務. 日本看護管理学会, 看護管理関連用語集. 2011/8, <http://janap.umin.ac.jp>.

田村やよひ(2012). No.23 看護職員需給問題. 日本看護管理学会, 看護管理関連用語集. 2012/3, <http://janap.umin.ac.jp>.

[研究助成および研究成果報告書]

田村やよひ, 外崎明子, 宮崎美砂子, 高橋眞理, 柳井晴夫, 伊藤圭(2011). 保健師助産師看護師国家試験の出題形式の改善に関する研究. 平成23年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業) 報告書.

[講演・学会発表]

田村やよひ. 国民の生命と生活を守る看護からの政策提言のあり方. 第31回日本看護科学学会学術集会教育講演, 高知市, 12月, 2011.

田村やよひ. 看護の今と取り組むべき課題. 社団法人静岡県看護協会 第60回通常総会特別講演, 静岡市, 2月, 2012.

人間科学(情報学)

[論文]

Olivares, P., Tamiya, N., Kashiwagi, M., & Kashiwagi, K.(2011). Predictors of the highest long-term care expenditures in Japan. *BMC Health Services Research*, 11, 103.

[著書]

柏木公一(2011). 保健医療分野の情報化推進に関する政策. 井部俊子, 中西睦子監修, 看護管理学習テキスト第2版 看護制度・政策論. 144-149, 日本看護協会出版会, 東京.

柏木公一(2011). 情報の分類とコード化の現状. 井部俊子, 中西睦子監修, 看護管理学習テキスト第2版 看護情報管理論. 43-57, 日本看護協会出版会, 東京.

柏木公一(2011). 病院・看護の管理システム構築・運営と情報活用. 井部俊子, 中西睦子監修, 看護管理学習テキスト第2版 看護情報管理論. 149-175, 日本看護協会出版会, 東京.

[誌上発表]

柏木公一(2012). 標準化の観点から看護必要度の妥当性を考える. 看護展望, 37(3), 262-268.

柏木公一(2012). 患者アウトカムと患者特性から看護配置基準を考える. 看護展望, 37(3), 269-274.

尾崎フサ子, 金井 Pak 雅子, 柳井晴夫, 上泉和子, 柏木公一(2011). 尺度開発の課題と今後の方向性. 日本看護管理学会誌, 15(2), 175-184.

[研究助成および研究成果報告書]

柏木公一(分担研究者)(2011). わが国における看護支援システムの評価に関する研究(研究代表者: 黒田裕子). 平成23～26年度科学研究費補助金(基盤研究(B)).

田宮菜奈子, 加藤剛平, 柏木聖代, 加藤剛平, 柏木公一. 福祉・介護サービスの質向上のためのアウトカム評価拠点—実態評価から改善へのPDCAサイクルの実現—中等度要介護者における要介護度変化に関連する居宅サービス利用頻度に関する研究. 福祉・介護サービスの質向上のためのアウトカム評価拠点—実態評価から改善へのPDCAサイクルの実現. 平成21～24年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業). 総括・分担研究報告書.

[講演・学会発表]

横田慎一郎, 今井健, 大江和彦, 岡峯栄子, 柏木公一. 看護プロフィール項目を元にした患者セルフケア・オントロジー構築フレームワーク. 第12回日本医療情報学会看護学術大会, 神戸, 7月, 2011.

柏木公一. 電子カルテ導入・更新における意思決定について 看護部トップマネージャーとシステム担当者の役割. 第15回日本看

護管理学会年次大会, 東京, 8月, 2011.

柏木公一. 運用マニュアル・操作マニュアル. 第5回医療情報ケアプロセス研究会, 東京, 9月, 2011.

加藤剛平, 田宮菜奈子, 柏木聖代, 柏木公一, 高橋秀人. 地域在住中～重度要介護高齢者の介護度変化に関連する居宅サービスの利用. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 10月, 2011.

柏木公一. システム導入—あなたなら、どうする?. 第6回医療情報ケアプロセス研究会, 鹿児島, 11月, 2011.

柏木公一. 指示と実施～病院情報システムと実運用の違い～. 第7回医療情報ケアプロセス研究会, 神戸, 2月, 2012.

人間科学(語学)

[論文]

Matsuoka, R. (2012). Effective SLA using CALL program with TLT software. *ELT Quarterly*, 12(3), 22-26.

Matsuoka, R., & Smith, I. (2012). Linguistic relativity in rakugo translation. *Translation Quarterly* 63, 27-49.

Matsuoka, R., & Smith, I. (2012). Linguistic relativity of zero pronouns in rakugo translation. *US-China Foreign Language*, 10(1). 825-836.

Matsuoka, R., & Evans, D. (2012). Analysis of an extensive reading approach with Japanese nursing college students. *Extensive Reading World Congress Proceedings, 1*, 131-134.

[講演・学会発表]

(国際学会・研究会)

Matsuoka, R. Effective SLA using CALL program with TLT software. The 10th Pan-SIG International Conference, Matsumoto, Japan, May, 2011.

Matsuoka, R. Linguistic relativity: How to become a fluent speaker in JSL. The 10th Pan-SIG International Conference, Matsumoto, Japan, May, 2011.

Matsuoka, R. Effectiveness of TLT software program. JaltCALL 2011, Kurume, Japan, June, 2011.

Matsuoka, R., & Poole, G. Gender and power in the healthcare communication of Japanese *manga* discourse. International Society for language studies international conference, Oranjestad, Aruba, June, 2011.

Matsuoka, R., & Poole, G. Other-directedness in Japanese speakers of English: Effectiveness of classroom performance on communication apprehension. The 9th AsiaTEFL International Conference, Seoul, Republic of Korea, July, 2011.

Matsuoka, R., & Smith, I. Linguistic relativity of pronouns in *rakugo* translation. XIX World Congress of International Federation of Translators, San Francisco, the USA, August, 2011.

Matsuoka, R. Evaluation of TLT software program. The 16th Conference of Pan-pacific Association of Applied Linguistics, Hong Kong, China, August, 2011.

Matsuoka, R., & Poole, G. The use of politeness strategies in Japanese healthcare settings: Analyzing the discourse of specialized *manga*. The 18th World Congress of Applied Linguistics. Beijing, P. R. China, August, 2011.

Matsuoka, R. Linguistic relativity in personal pronouns in *rakugo* translation. The Summer Conference of Shonan Society of English Literature, Fujisawa, Japan, August, 2011.

Matsuoka, R. Analysis of an extensive reading approach with Japanese nursing college students. The First Extensive Reading World Congress, Kyoto, Japan, September, 2011.

Matsuoka, R. Does language form our sense of self? The 12th Annual Conference of Japan Association of Interpreting and Translation Studies, Kobe, Japan, September, 2011.

Poole, G., & Matsuoka, R. Politeness strategies of healthcare communication at disasters. The 3rd Japan Association of Health Communication, Fukuoka, Japan, September, 2011.

Matsuoka, R., & Poole, G. Socio-linguistic analysis of gender and power in the discourse of Japanese healthcare *manga*. Cognition, Conduct, and Communication 2011, Lodz, Poland, October, 2011.

Matsuoka, R., & Ikarigawa, T. Patient confidentiality in healthcare settings in Japan. The 26th Conference of the Society for Intercultural Education, Training, and Research, Hyogo, Japan, October, 2011.

Matsuoka, R., & Evans, D. Effects of in-class extensive reading: Should we include extensive reading in class? The 8th CamTESOL Conference, Phnom Penh, K. Cambodia, February, 2012.

人間科学(保健行政学)

[著書]

森山幹夫(2011). 日本の社会保障制度と看護. 看護学基礎テキスト第3巻, 65-135, 日本看護協会出版会, 東京

森山幹夫(2012). 看護関係法令. 系統看護学講座, 医学書院, 東京.

[誌上発表]

森山幹夫(2012). 消費税と社会保障の関係. 保育界, 450, 56-57, 2012.

[研究助成および研究成果報告書]

森山幹夫, 梅津靖江(2011). 地域密着型医療の促進のための有床診療所の役割拡大に関する研究 各論研究報告 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発研究推進事業 地域密着型医療の促進のための有床診療所の役割拡大に関する研究 (主任研究者 森山幹夫), 総括研究報告書, 24-58.

[講演・学会発表]

森山幹夫. 日本の福祉. 財団法人アジア福祉教育財団, 東京, 4 月, 2011

森山幹夫. あなたが支える超高齢社会. 社団法人和歌山社会経済研究所, 和歌山, 2 月, 2012.

人間科学(生命科学)

[誌上発表]

竹村玲子, 飯野京子(2011). 抗がん剤の臨床薬理～抗がん剤を用いるときの薬物相互作用～. 症状マネジメントから学ぶ, *Oncology Nursing*, 2(3), 16-21.

基礎看護学(看護基礎科学)

[論文]

Kobayashi, H., Takemura, Y., & Kanda, K. (2011). Patient perception of nursing service quality; an applied model of Donabedian's structure-process-outcome approach theory. *Scandinavian Journal of Caring Sciences*, 25(3), 419-25.

Zhao, H., Zhang, C., Lu, T., Shi, Y., Zheng, J., Ding, Y., et al.(2011). Survey on career identity of nurses in 6 Class III Grade I Hospitals. *Journal of Nursing China*, 18(4A), 27-30.

[著書]

小林秀行(2012). 患者の経験に着眼した看護サービスの質評価. 菅田勝也編, 看護管理に活かすベンチマーキング; 看護サービスの質改善のために. 60-75, 中山書店, 東京.

能見清子(2011). 人権保障と児童権利条約. 星野政明, 真鍋頭久, 三友雅夫編, 子ども家庭のウェルビーイング. 23-26, 金芳堂, 名古屋.

村島さい子, 能見清子(2012). 看護と経営. 村島さい子, 加藤和子, 瀬戸口要子編, ナーシンググラフィカ 20 基礎看護学 看護管理 (第 2 版). 124-141, メディカ出版, 大阪.

[誌上発表]

能見清子(2012). 国立看護大学校研究課程部での学びを振り返って. 学位授与の 20 年. 43, 独立行政法人大学評価・学位授与機構, 東京.

[研究助成および研究成果報告書]

水野正之(2011). 人工呼吸器関連肺炎とヘッドアップ角度との関連に関する研究. 平成 23 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (若手研究(B)).

森那美子(2011). 病院機能特性に応じた医療機関および看護師の生物災害対応に関する研究. 平成 23 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (若手研究(B)).

森那美子(2011). 医療関連感染防止におけるリンクナースの準備性および教育に関する研究. 平成 23 年度国際医療研究開発費.

小林秀行 (研究代表者) (2011). ヘルス・ケイパビリティ向上のための看護支援により社会に創出される効果. 平成 23 年度学術研究助成基金助成金: 若手研究(B).

[講演・学会発表]

Kobayashi, H., Takemura, Y., & Kanda, K. Can inequity of nursing service be reduced by nurse staffing? An analysis based on the quality as perceived by patients. International Health Economics Association 8th World Congress on Health Economics, Toronto, Canada, July, 2011.

Kobayashi, H., Sahlén, KG, Takemura, Y., & Kanda, K. From hospital nursing to health capability; differences in impacting nursing domains perceived by patients in Sweden and Japan, 4th European Public Health Conference, Copenhagen, Denmark, November, 2011.

森那美子, 切替照雄, 荒川宜親. 中小規模医療施設における院内感染対策活動に関するアンケート調査. 第 27 回日本環境感染学会総会学術集会, 福岡, 2 月, 2012.

小林秀行. グローバル経済危機下における看護の役割. 第 15 回日本看護管理学会年次大会, 東京, 8 月, 2011.

小林秀行. スウェーデンに見る看護上位資格の創設とその運用; 医師業務を移転した麻酔看護師の業務独占に着眼して. 第 31 回

- 日本看護科学学会学術集会, 高知市, 12月, 2011.
- 能見清子. 看護学生の日常生活援助技術における臨地実習での経験と自信の程度. 第15回日本看護管理学会年次大会, 東京, 8月, 2011.
- 能見清子, 小林秀行, 水野正之, 宮本美佐, 濱本洋子. 地域住民の協力する模擬患者参加型演習の導入が基礎看護技術教育にもたらす効果. 第31回日本看護科学学会学術集会, 高知市, 12月, 2011.
- 上村一郎, 能見清子. 看護学生の日常生活援助技術における実習での経験の有無と自信の程度. 第9回国立病院看護研究学会学術集会, 千葉市, 12月, 2011.
- 吉野智佳子, 能見清子. がん終末期ケアに携わる看護師が捉える患者の死の受容とは—臨床経験7年目以上の看護師のインタビューを通して—. 第9回国立病院看護研究学会学術集会, 千葉市, 12月, 2011.

基礎看護学(看護教育学)

[論文]

- 趙秋利, 仰曙芬, 舟島なをみ, 亀岡智美, 謝大明, 黄菲菲, 野元百合子, 中山登志子, 他(2011). Chinesization and Evaluation of Self-evaluation Scale on Role Model Behaviors for Nursing Faculty. *Nursing Journal of Chinese People's Liberation Army*, 28(5A), 1-4.
- 宮首由美子 (2011). 被災地への支援と情報—毎日の詳細な活動報告が, 後続派遣とのスムーズな連携のために必要—, *インターナショナルナーシングレビュー*, 34(5), 46-48.
- 宮首由美子, 亀岡智美(2012). 認定看護師の活動継続意思の現状と活動状況との関係. *国立看護大学校研究紀要*, 11(1), 1-9.
- 宮首由美子, 亀岡智美(2012). 認定看護師の役割ストレスに関する研究—現状および関係する特性に焦点を当てて—. *看護教育学研究*, 21(1), 25-40.

[研究助成および研究成果報告書]

- 亀岡智美 (研究代表者), 舟島なをみ, 中山登志子, 鈴木美和 (研究分担者) (2011). 臨床看護師による実践への研究成果活用支援システムの開発—EBN 推進に向けて—. 平成 20-22 年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)). 研究成果報告書.
- 橋本政典 (主任研究者), 亀岡智美 (分担研究者) (2011). 病院に就業する看護師の看護実践能力の向上に関する研究—効果的な看護継続プログラムの開発. 平成 22 年度国際医療研究開発費. 研究報告書.

[講演・学会発表]

(国内学会)

- 亀岡智美, 舟島なをみ, 野本百合子, 中山登志子, 鈴木美和. 病院に就業する看護師の研究成果活用力に関する特性. 日本看護教育学学会第 21 回学術集会, 愛媛, 8月, 2011.

基礎看護学(看護管理学)

[論文]

- 浦中桂一, 水野正之, 小澤三枝子(2011). 男性看護師の複数配置の評価—バーンアウトスコアを指標として—. *日本看護評価学会誌*, 1(1), 3-10.
- 水口京子, 佐藤朋子, 木村ひろみ, 及川桂, 泥谷雅子, 小澤三枝子(2012). 新人看護職員の臨床研修におけるローテーション研修の効果—看護技術経験状況および習得状況の分析—. *国立看護大学校研究紀要*, 11(1), 20-28.
- 稲川沙智, 河野知華, 六人部かおり, 峯真理子, 木村麻紀, 小澤三枝子(2012). 特別病室入院患者の療養生活への期待と満足との関係について. *国立看護大学校研究紀要*, 11(1), 29-36, 2012.
- 石井祥子, 西岡みどり(2012). HIV 陽性者の禁煙への関心度. *国立病院看護研究学会誌*, 8(1), 22-26.
- 黒田恵美, 西岡みどり(2012). 未知の感染症発生時のリスクコミュニケーション. *国立病院看護研究学会誌*, 8(1), 14-21.

[誌上発表]

- 小澤三枝子(2011). 看護研究・テーマの見つけ方. *Expert Nurse*, 27(7), 53-61.

[研究助成および研究成果報告書]

(研究助成)

- 西岡みどり(2011). 病院施設の規模別の感染対策の実態調査(分担研究). 新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する研究(主任研究者: 切替照雄). 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業. (研究成果報告書)
- 西岡みどり(2012). 分担研究報告書. 病院施設の規模別の感染対策の実態調査(分担研究). 新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する研究(主任研究者: 切替照雄). 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業.

黒田恵美, 工藤宏一郎, 川名明彦, 西岡みどり(2012). 「新型インフルエンザパンデミックにおける感染管理看護師のリスクコミュニケーション」調査報告書. (病院施設の規模別の感染対策の実態調査 (分担研究)). 新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する研究 (主任研究者: 切替照雄). 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業.

[講演・学会発表]

水口京子, 木村ひろみ, 泥谷雅子, 及川桂, 佐藤朋子, 小澤三枝子. 新人看護師を対象としたローテーション研修の効果—看護技術の習得状況の分析—. 第9回国立病院看護研究学会学術集会, 東京, 12月, 2011.

石井祥子, 島田恵, 池田和子, 岡慎一, 西岡みどり. HIV 陽性者の喫煙に関する調査 (第1報) 喫煙状況と喫煙に関連する因子. 第25回日本エイズ学会学術集会, 東京, 11月, 2011. (日本エイズ学会誌, 13(4), 357. 2011.)

石井祥子, 島田恵, 池田和子, 岡慎一, 西岡みどり. HIV 陽性者の喫煙に関する調査 (第2報) 禁煙への関心度と禁煙に関連する因子. 第25回日本エイズ学会学術集会, 東京, 11月, 2011. (日本エイズ学会誌, 13(4), 358. 2011.)

黒田恵美, 工藤宏一郎, 川名明彦, 西岡みどり. 新型インフルエンザパンデミックにおける感染管理看護師のリスクコミュニケーションに関する調査. 第27回日本環境感染学会総会, 福岡, 2月, 2012. (環境感染, 27suppl, 137. 2012.)

坂木晴世, 立花亜紀子, 松本千秋, 水上由美子, 池田知子, 高見澤一穂, 西岡みどり, 他. 新生児集中治療室における手指衛生遵守率と擦式アルコール製剤使用量およびMRSA 検出率に関する多施設調査 (第1報). 第27回日本環境感染学会総会, 福岡, 2月, 2012. (環境感染, 27suppl, 105. 2012.)

西岡みどり. 倫理的課題について. シンポジウム8 感染制御大学院教育の将来. 第27回日本環境感染学会総会, 福岡, 2月, 2012. (環境感染, 27suppl, 48. 2012.)

成人看護学

[論文]

Tonosaki, A. (2012). The long-term effects after hematopoietic stem cell transplant on leg muscle strength, physical inactivity and fatigue. *European Journal of Oncology Nursing*, [Epub ahead of print], 19 January 2012, <http://dx.doi.org/10.1016/j.ejon.2011.11.005>.

Ishii, N., Arai, M., Koyama, Y., Ueno, M., Yamaguchi, T., Kazuma, K., & Muto, T. (2011). Factors affecting encouragement of relatives among families with Lynch syndrome to seek medical assessment. *Familial Cancer*, 10(4), 649-654.

飯野京子, 綿貫成明, 佐川美枝子, 鈴木八千代, 廣門三千代(2012). 国立病院看護研究学会学術集会における研究の動向. 国立病院看護研究学会誌, 8(1), 51-59.

小山友里江(2011). 人工膝関節全置換術を受けたリウマチ患者の手術療法前後の Quality of Life. 日本整形外科看護研究会誌, 6, 30-35.

前場康介, 満石寿, 飯尾美沙, 藤澤雄太, 竹中晃二(2011). 中・高齢者の運動停止を導くハイリスク状況への対処方略とセルフ・エフィカシーとの関連. 老年社会科学, 33(3), 417-425.

飯尾美沙, 藤澤雄太, 満石寿, 前場康介, 竹中晃二, 大矢幸弘(2011). 小児気管支喘息における患者教育に関する国内文献レビュー. 小児看護, 34(7), 925-930.

[著書]

飯野京子, 小山友里江(2011). がん化学療法を理解するポイント. 飯野京子編, オンコロジーナースのためのがん化学療法ハンドブック. 7-10, 医薬ジャーナル社, 東京.

飯野京子, 竹村玲子(2011). 抗悪性腫瘍薬一覧. 飯野京子編, オンコロジーナースのためのがん化学療法ハンドブック. 11-15, 医薬ジャーナル社, 大阪.

飯野京子, 綿貫成明(2011). パフォーマンスステータス. 飯野京子編, オンコロジーナースのためのがん化学療法ハンドブック. 20-21, 医薬ジャーナル社, 大阪.

飯野京子, 小山友里江(2011). 抗がん剤の血管外漏出. 飯野京子編, オンコロジーナースのためのがん化学療法ハンドブック. 36-37, 医薬ジャーナル社, 東京.

飯野京子, 小山友里江(2011). 副作用の基準. 飯野京子編, オンコロジーナースのためのがん化学療法ハンドブック. 38-43, 医薬ジャーナル社, 東京.

飯野京子, 竹村玲子(2011). 抗がん剤の薬物相互作用. 飯野京子編, オンコロジーナースのためのがん化学療法ハンドブック. 48-49, 医薬ジャーナル社, 大阪.

飯野京子, 綿貫成明(2011). がん医療に関する制度, 診療報酬. 飯野京子編, オンコロジーナースのためのがん化学療法ハンドブック. 50-53, 医薬ジャーナル社, 東京.

飯野京子, 綿貫成明(2011). 医薬品情報の収集. 54-60. 飯野京子編, オンコロジーナースのためのがん化学療法ハンドブック. 医薬ジャーナル社, 東京.

大西和子, 飯野京子編(2011). がん看護学 臨床に活かすがん看護の基礎と実践. ヌーヴェルヒロカワ, 東京.
藤澤雄太(2012). 第7章個別コンサルテーション. 竹中晃二編, 朝倉実践心理学講座9 運動と健康の心理学. 81-92, 朝倉書店, 東京.

[誌上发表]

飯野京子(2011). 終末期のヘルスアセスメントー看取りを支える看護ー. ホスピスケア, 23(1), 10-17.

[研究助成および研究成果報告書]

外崎明子(2011). がんサバイバーの身体活力回復プログラムの構築と評価研究. 平成20~24年度科学研究費補助金(基盤研究B). (研究代表者). 研究報告書.

外崎明子(2011). 乳がん化学療法を受ける患者のバイオマーカーを指標とした運動の効果検証. 平成22~24年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). (研究代表者). 研究報告書.

小松浩子, 飯野京子, 小山友里江, 綿貫成明, 久部洋子, 丸口ミサエ, 他(2011). 上部消化器術後障害をもつがん患者の活力とQOL向上をめざす<食>リハビリテーション開発. 厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業. QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究. 平成22年度 総括・分担研究報告書(研究代表者 江角浩安), 33-40.

[講演・学会発表]

Tonosaki, A. Impact of daily activity and physical condition on QOL of women receiving cancer chemotherapy. Global Breast Cancer Conference 2011, Symposium; Impact of Nursing Care on the QOL of Women with Breast Cancer, Seoul, Korea, October, 2011.

栗原美穂, 岡田教子, 市川智里, 市橋富子, 飯野京子, 綿貫成明, 小山友里江, 他. 食道がん根治術後に体験する症状の術後2ヶ月目までの発生状況及び生活への影響. 第26回日本がん看護学会学術集会, 島根, 2月, 2012.

石井宏明, 栗原美穂, 清野幸子, 小原真由美, 小山友里江, 飯野京子. がん専門病棟の終末期における倫理的ジレンマの分析. 第26回日本がん看護学会学術集会, 島根, 2月, 2012.

山田真由美, 小山友里江, 飯野京子. 成人同種造血幹細胞移植患者における移植片対宿主病に関するセルフケア行動. 第26回日本がん看護学会学術集会, 島根, 2月, 2012.

山田真由美, 小山友里江, 飯野京子. 成人同種造血幹細胞移植患者におけるGVHDセルフケア行動への影響要因. 第34回日本造血細胞移植学会総会, 大阪, 2月, 2012.

石井宏明, 栗原美穂, 小原真由美, 清野幸子, 小山友里江, 飯野京子. デスカンファレンスについての実践報告. 第65回国立病院総合医学会, 岡山, 11月, 2011.

飯野京子. がん終末期患者のヘルスアセスメント. ホスピスケア研究会, 東京, 7月, 2011.

飯野京子. がん化学療法看護実践にいかす基礎的知識. 第3回がん薬物療法研修, 兵庫, 12月, 2011.

飯野京子. がん化学療法の基礎知識. がん支持療法勉強会, 東京, 9月, 2011.

宮東里恵, 遠藤晶子, 石井智香子. 健常女性を対象とした首都圏のラッシュ時および非ラッシュ時の電車通勤中の心拍数変化. 第75回日本循環器学会総会・学術集会, 横浜, 8月, 2011.

藤澤雄太. 心と身体と健康と教育 学生を対象とした身体的健康教育 新たな取組みの提案. 第24回日本健康心理学会大会, 東京, 9月, 2011.

斎藤めぐみ, 藤澤雄太, 竹中晃二. iPadを用いた健康行動の計画作成プログラムの開発と評価ー特定保健指導に用いる対象者を行動変容に導くプログラムの効果検証ー. 第24回日本健康心理学会大会, 東京, 9月, 2011.

藤澤雄太. 看護師による動機づけ面接の動向および課題の検討. 第31回日本看護科学学会学術集会, 高知, 12月, 2011.

成育看護学(小児看護学)

[著書]

伊藤龍子(2012). 152 小児救急医療におけるトリアージとは?. 道又元裕監修, ケアの根拠(第2版)看護の疑問に答える180のエビデンス. 164, 日本看護協会出版会, 東京.

伊藤龍子(2012). 154 小児患者のためのプレパレーションは効果的か?. 道又元裕監修, ケアの根拠(第2版)看護の疑問に答える180のエビデンス. 166, 日本看護協会出版会, 東京.

伊藤龍子(2012). 155 小児の痛みのアセスメントとは?. 道又元裕監修, ケアの根拠(第2版)看護の疑問に答える180のエビデンス. 167, 日本看護協会出版会, 東京.

伊藤龍子(2012). 159 小児医療における看取りとは?. 道又元裕監修, ケアの根拠(第2版)看護の疑問に答える180のエビデンス. 171, 日本看護協会出版会, 東京.

来生奈巳子(2012). 小児と家族を取り巻く社会. 奈良間美保, 丸光恵, 堀妙子, 新家一輝, 富岡晶子, 大須賀美智, 他, 系統看護学講座小児看護学I小児看護学概論. 168-194. 医学書院, 東京.

[誌上发表]

伊藤龍子(2011). 小児看護と学校保健の連携と協同. 保健の科学, 53(5), 324-329.

来生奈巳子(2011). 入院患児の親への子育て支援. 小児看護, 34(7), 871-879.

[研究助成および研究成果報告書]

伊藤龍子(2011). 小児の看護の視点からの提言—在宅医療における地域資源の検討. 平成23年度成育医療研究開発費事業「超重症児の在宅医療における地域資源開発」実績報告書.

伊藤龍子(2011). 小児医療施設における看護師のキャリアパス開発とキャリアトレーニングプログラムのあり方. 平成23年度成育医療研究開発費事業「成育看護に従事する看護職員の人材育成のキャリアパスの構築と具体的研修プログラムの開発」実績報告書.

[講演・学会発表]

来生奈巳子. 養育支援訪問事業の意義と目的. 平成23年度清瀬市養育支援訪問事業初期研修及び育児支援ヘルパースキルアップ研修, 東京, 2月, 2012.

西田幹子, 玉城久美子, 宮本圭奈美, 村松恵, 西海真理, 伊藤龍子, 他. 外来における在宅腹膜透析患児の看護介入方法の検討. 第33回日本小児腎不全学会, 静岡, 10月, 2011.

日沼千尋, 西田志穂, 来生奈巳子, 萩原綾子, 関森みゆき, 石井由美子. 小児救急トリアージの実態とトリアージナーズの教育に関する調査—日本小児看護学会小児看護政策委員会報告—. 第21回日本小児看護学会学術集会, 埼玉, 7月, 2011.

成育看護学(母性看護学)

[誌上发表]

佐々木和子(2011). 硬膜外麻酔使用による無痛分娩—産後1年経過した母親が語るその体験を聞いて—. 助産雑誌, 65(5), 418-423.

[講演・学会発表]

岩田裕美, 森岡由起子. 出生早期の母子相互作用に影響を及ぼす要因について. —親の抑うつ状態およびこどもの気質(易刺激性)と母子相互作用について—. 第21回日本乳幼児医学・心理学会, 東京, 11月, 2011.

精神看護学

[論文]

Suzuki, M., Amagai, M., Shibata, F., & Tsai, J. (2011). Factors related to self-efficacy for social participation of people with mental illness. *Archives of Psychiatric Nursing*, 25(5), 359-365.

柴田文江, 鈴木麻揚, 天谷真奈美(2011). 精神障害者の「社会復帰」と「社会参加」—用語に関する諸問題. 病院・地域精神医学, 54(1), 100-109.

新田真由美, 板山稔, 天谷真奈美(2011). 統合失調症患者の禁煙認識と禁煙阻害因子—禁煙支援のための課題を考える—. 日本看護研究学会雑誌, 34(5), 31-40.

Ueno, R., & Kamibeppu, K.(2012). Perspectives of Japanese Mothers with Severe Mental Illness Regarding the Disclosure of their Mental Health Status to their Children. *Archives of Psychiatric Nursing*, in press.

[誌上发表]

(書評)

上野里絵(2011). 私はこれでいいんだ—母の病・葛藤・体験を力に変えて. 心と社会, 42(3), 106.

[研究助成および研究成果報告書]

天谷真奈美, 鈴木麻揚, 小林悟子(2011). 精神障害者の社会参加効力感とその関連因子の国際比較. 平成23年度科学研究費補助金(基盤研究(B)).

上野里絵(2011). うつ病を有する親の子どもへの家族を中心とした予防学的介入プログラム日本版の開発. 平成23年度科学研究費補助金(若手研究(B)).

[講演・学会発表]

(国内)

川内健三, 天谷真奈美. 精神科訪問看護において病棟看護師が感じる困難. 第37回日本看護研究学会学術集会, 横浜市, 8月, 2011.

高橋万紀子, 天谷真奈美, 田中留伊, 板山稔. 初回退院した統合失調症者と暮らす親の在宅移行期の体験, 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田市, 10月, 2011.

(国外)

天谷真奈美. 日本精神科康復. 鄭州第八人民医院 (鄭州市精神衛生中心), 鄭州市, 中国, 8月, 2011.

Ueno, R., & Kamibepu, K. Perspectives of Japanese Mothers with Severe Mental Illness Regarding the Disclosure of their Mental Health Status to their Children. 10th International Family Nursing Conference, Kyoto, Japan, June, 2011.

老年・在宅看護学(老年看護学)

[論文]

小林咲, 綿貫成明 (2012). 一次救命処置教育の反復受講と手技の実施に対する自信と不安の関連—受講者の教育進度に合わせた効果的な指導に向けて. 国立病院看護研究学会誌, 8(1), 37-50.

[誌上発表]

竹内沙織, 綿貫成明 (2012). 入院中にせん妄を発症した患者の家族の心理的な変化や反応とそれに対する援助—1983~2010年の文献の検討から. 国立病院看護研究学会誌, 8(1), 27-36.

[講演・学会発表]

守田恵理子, 小熊亜希子, 綿貫成明, 林稚佳子, 中村仁美, 岩崎孝子. 高齢者の特徴をふまえた看護学統合演習・実習の展開—複数患者受け持ちにおける多重課題の解決について. 第9回国立病院看護研究学会学術集会, 幕張, 12月, 2011.

平岡光枝, 野口貴史, 河村木綿子, 木下舞, 萬弘子, 綿貫成明. 急性医薬品中毒患者に対する救急病棟看護師の心理・態度. 第9回国立病院看護研究学会学術集会, 幕張, 12月, 2011.

岡田教子, 栗原美穂, 市川智里, 市橋富子, 飯野京子, 綿貫成明, 小山友里江, 他. 食道がん根治手術直後の嚥下障害の発生状況とケアの実態. 第26回日本がん看護学会学術集会, 島根, 2月, 2012.

老年・在宅看護学(在宅看護学)

[論文]

浅野均, 林稚佳子, 三笥里香, 濱本洋子, 佐藤鈴子(2012). 回復期リハビリテーション病棟から退院した脳血管障害療養者の排泄の援助—在宅療養初期において家族介護者が行う援助内容の質的分析—. 国立看護大学校紀要, 11(1), 10-19.

川井田恭子, 小澤三枝子, 西岡みどり, 佐藤鈴子(2011). HIV/AIDS 外来患者の二次感染予防における看護援助の実施状況. 日本看護科学会誌, 31(4), 64-74.

宮下裕江, 佐川美枝子, 佐藤鈴子(2011). 訪問看護師が退院時サマリーに求める情報, 国立病院看護研究学会誌 7(1), 52-60.

飯野京子, 綿貫成明, 佐川美枝子, 鈴木八千代, 廣門美千子(2012). 国立病院看護研究会学術集会における研究の動向, 国立病院看護研究学会誌, 8(1), 51-58.

[講演・学会発表]

高頭悠, 佐川美枝子. 在宅における看取りでの訪問看護師の看護活動. 第9回国立病院看護研究学会学術集会, 幕張, 12月, 2011.

土屋麗, 佐川美枝子. 在宅における末期がん療養者の家族の肯定的感情とそこから考察する訪問看護師の役割. 第9回国立病院看護研究学会学術集会, 幕張, 12月, 2011.

国際看護学

[論文]

Higuchi, M. (2011). Motivational factors that influence work activities by Auxiliary Nurse Midwives in India. *Proceeding of Qualitative Health Research*, 1, 32.

清水真由美, 亀岡智美(2012). 活動報告: バングラデシュ人民共和国グラミンカレドニア看護大学との協力連携. 国立看護大学校研究紀要, 11(1), 37-42.

田村豊光, 小林誠子, 清水真由美, 松本安代(2011). セネガル共和国における看護教育の歴史の変遷. 国際保健医療, 26(4), 341-348.

[著書]

樋口まち子(2011). 看護の国際協力活動—歴史・現状と課題. 田村やよひ編, 看護学基礎テキスト第3巻, 社会の中の看護. 159-189, 日本看護協会出版会, 東京.

樋口まち子(2011). 社会と開発「生活スタイルを変えることは可能か」. 山口しのぶ, 毛利勝彦, 国際開発高等教育機構編, ケースで学ぶ国際開発, 90-98, 252, 東信堂, 東京.

樋口まち子(2011). タイとスリランカの継続的なフィールド調査. 鴨川明子編, アジア地域統合講座, アジアを学ぶ—海外調査研究の手法. 161-176, 219-220, 勁草書房, 東京.

須藤恭子(2011). 子育て家庭の子育て不安. 星野政明編, 子ども家庭のウェルビーイング. 6-11, 金芳堂, 京都.
須藤恭子(2011). ”何か”を求めて. JOCV看護職ネットワーク, 世界を駆けたナースたち-その後-. 57-59.

[研究助成および研究成果報告書]

樋口まち子(2011). 開発途上国の PHC における看護教育の効果に関する研究 (主任研究) 平成 21~23 年度 国際医療研究開発費.

樋口まち子(2011). 途上国における生活習慣病 (糖尿病) 対策の看護の人材養成のモデル構築に関する研究 (分担研究) 平成 22 ~24 年度国際医療研究開発費.

[講演・学会発表]

Higuchi, M. Motivational factors that influence work activities by Auxiliary Nurse Midwives in India. The 17th Annual Qualitative Health Research Conference, Vancouver, Canada, October, 2011.

落合治, 井田佳緒里, 清水真由美, 小澤三枝子. 精神科の患者の身体拘束を一時解除できるかどうかの判断の視点. 第9回国立病院看護研究学会, 東京, 12月, 2011.

井田佳緒里, 落合治, 清水真由美, 小澤三枝子. 精神科における身体拘束に対する看護師のジレンマに関する文献研究. 第9回国立病院看護研究学会, 東京, 12月, 2011.

土井和子, 徳田直子, 吉野尚子, 木下千衣, 高崎寛子, 谷口史代, 石戸瑞恵, 田原恵美子, 宮本久美, 森由起子, 清水真由美. 鎮静剤使用下で内視鏡検査を受ける患者の転倒・転落防止への取り組み. 第9回国立病院看護研究学会, 東京, 12月, 2011.

林友紗, 標美奈子, 江口晶子, 三輪眞知子, 須藤恭子, 金子仁子. 乳幼児の虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する基礎調査 虐待認識. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 10月, 2011.

金子仁子, 林友紗, 標美奈子, 江口晶子, 小川真美, 須藤恭子. 乳幼児の虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する基礎調査 きずな. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 10月, 2011.

標美奈子, 林友紗, 江口晶子, 三輪眞知子, 須藤恭子, 金子仁子. 乳幼児の虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する基礎調査 活動実態. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 10月, 2011.